

【参加報告】

エッセンスフォーラム 2024 で行政、企業、大学の関係者らと意見交換

2024年9月24日～25日に東京・八重洲でエッセンスフォーラム2024が開催された。本フォーラムは、「研究知の社会実装に向けて (Knowledge to Knowledge Capital)」をテーマに、研究知が社会の重要なリソースとなる可能性と課題を探る場として位置付けられた。

「研究者の足場を支える研究環境の変革」というセッションでは、若手アカデミーが2023年に発表した「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」を基に、小野悠代表が行政、企業、大学の関係者とともに、研究者が最大限に成果を発揮するために必要な環境整備について議論した。また、「研究知が生きる社会という構造的変革によるソーシャルイノベーション」のセッションでは、小野氏と南澤孝太幹事が登壇し、ソーシャルイノベーションの専門家とともに、研究知を活かすための社会構造の変革について意見を交わした。本フォーラムを通じて、研究知が社会に与える影響力やその実装に向けた課題が再認識され、各セクターの具体的な取り組み方策と協働の可能性が共有された。



(報告者：小野悠・若手アカデミー代表／豊橋技術科学大学)